



自治労連第45回定期大会で
発言する平田代議員

改めて対面での活動・交流の大切さを再確認する機会となりました。



動が中心でした。石川書記長は、公共を取りもどす運動と働きがい・魅力ある職場づくりの取り組みはつながっており、それを活かすのが日本国憲法なので改悪させない闘いを強めようと答弁しました。

8月27日(日)、29日(火)宇部市で自治労連第45回定期大会が4年ぶりに会場での開催となり、代議員282名と傍聴者が参加し、代議員の女性割合は29・4%でした。桜井中央執行委員長は、岸田政権は諸政策を閣議決定で進めることがより多くなった、と指摘し、自治体・公共職場に国の政策を地方に押し付け、国民管理体制を強化しているが、自治労連だからこそできた全国統一行動「3Tアクション」や公共を取りもどす運動をさらに進めようと挨拶しました。

各地方からの発言では、①組織拡大 ②賃金闘争 ③会計年度任用職員処遇改善の運動 ④もう一人保育士を運動 ⑤公共を取りもどす運動が採択されました。全ての議案と新役員体制「ジェンダー平等宣言」「大会宣言」が採択され終了しました。

青年部 8月26日(土)、山口県宇部市男女共同参画センターで青年部第36回定期大会が行われました。会場には全国様々な地域から大勢の青年たちが集い、仲間との久々の再会を喜び、言葉を交わす姿があちこちで見られました。討論の場面では、全国各地の青プロの報告はもちろん、青プロを機に様々な交流活動が活発に行われるようになった様子などが数多く語られました。後半には数名のグループに分かれて、それぞれの職場で「ココが変かも?」ということや、普段の青年活動などをテーマに意見交流を行いました。コロナ禍を経て久々のリアル開催となる定期大会に、

女性部 女性部は大会に先立ち、DVD「みんなの生理」を視聴し、女性ホルモンの生理の仕組み等を学習しました。大会開会にあたり、杉森女性部長は「落ち込んだ時に助けて」と言える女性部、人と人をつなぐ女性部としてめざすものを探りながら、提案しながら、自分たちの健康や生活、権利を守っていこうと挨拶しました。



非正規公共評 非正規雇用・公務公共関係評議会第31回定期大会が8月26日に宇部市文化会館にて開催されました。まず小川議長や来賓の松尾書記次長から、3Tアクションの取り組みや非正規公共評30年の歴史が語られ、方針の提案では雇止め阻止、均等待遇、大幅賃上げ、住民本位の公務公共、ジェンダー差別反対の内容の入った5つのスローガンが運動の柱として掲げられました。討論では15人から発言があり、広島からは三宅代議員が広島非正規公共評の1年間の取り組みと今後の在り方、そして安佐動物公園飼育員の正規化について発言しました。全国からの発言で充実した討論となりました。コロナ禍が収束し、新たなスタートを感じることが出来た大会となりました。



「住民の繁栄なくして自治体・公共労働者の幸せはない」に立ち返ろう



保育部会 代議員59人が参加、情勢を学ぶとともに、各地の運動の報告・交流を行いました。事務局から愛知発の「子どもたちにもう一人保育士を」の運動が国を動かし、「こども未来戦略方針」が閣議決定され、75年ぶりの配置基準改善が盛り込まれたことが報告されました。しかし、加算措置であるため、自治体によっては配置基準の改善が行われない可能性もあることを指摘。広島市職労からは「広島市幼児教育・保育ビジョン」による公立保育園の統廃合や認定こども園化の計画と反対運動について報告しました。多くの課題を打開し、保育を守っていくために、保育部会として今後の運動方針と当面の具体的な取り組みを提案し、全会一致で承認されました。



ひろしま給食まつり知る・学ぶin安佐北



子どもたちのこころの拠り所

“ひろしま給食まつり知る・学ぶin安佐北”を、真亀公民館で開催し、16名の市民が参加しました。

まつり副実行委員長を務める広島市職労学校給食調理協平野議長は、「調理員は、子どもたちの成長を見守り、より良い給食を提供できるように努力している。センター化計画は着々と進められているが、当事者である子どもたちやその保護者に詳細が伝えられていないことが大問題。子どもたちのこころの拠り所・給食のことを

調理実習では、給食のサラダドレッシングの美味しさの秘密・“せんちゃんそぼろご飯”の調理実演・ご家庭でもすぐに作れる味噌玉、みんな大好き揚げパンも登場。

展示・質問コーナーでは、多くの写真や実際に日々使用する調理器具、紙で作ったミニチュア給食、保育園給食のようす

調理実習の様子

●状況を知りたい、と呼びかけました。

●状況を子どもたち、保護者に伝えたい

参加者からは「給食のいま」を作っている立場の人から聞くことができ、良かった」「質問にも丁寧に答えてもらえた」「安佐市民病院跡地に給食センターができることを、今日初めて知った」と驚かれました。

“まつり”を通じて、子どもたちや保護者に状況や課題を伝えなければと、改めて感じる取り組みとなりました。

指定管理職場の労組でつくる「関連労組連絡会」(以下、関連)は、7月から指定管理者制度の広島市の各所管課と交渉を行い、最終日9月1日に企画総務局分権・業務改革担当課との交渉を行いました。

指定管理者制度には諸問題がありますが、関連は現在、解決すべき喫緊の問題として、広島市と同時期同制度の定年延長制度導入を要求しています。

広島市では今年度60歳を迎える職員から1年ずつ延長します。しかし関連団体のほとんどは(社会福祉事業団を除く)導入するかどうか決まっています。

広島市関連団体で働くみなさんへ

声をあげよう・行動しよう

■広島市関連団体の職員は、広島市職員と同じように住民のために誇りを持って働いています■

関連団体は設立以降、広島市職員の賃金・待遇に準じて改善もありましたが、会計年度任用職員制度導入後、地方公務員と関連団体は法律が違ふという理由で改善が図られていません。

定年延長を同時期に導入しないのであれば、今後、関連団体のプロパー職員の待遇は「市と同様に」改善しないことを危惧します。

既に会計年度任用職員と関連団体非常勤職員の賃金一時金には格差があります。

関連団体で働く私たちは、自治体職員と同じように誇りをもって市の仕事を担っています。待遇改善を求めて声をあげ、行動しましょう。

広島自治労連
連続学習会②

核廃絶に インターセクショナルな視点を



田中美穂さん

は、2019年1月に発足され、広島選出のたはゆかりのある国会議員に核兵器禁止条約

「力クワカ広島」は、2019年1月に発足され、広島選出のたはゆかりのある国会議員に核兵器禁止条約

「力クワカ広島」は、2019年1月に発足され、広島選出のたはゆかりのある国会議員に核兵器禁止条約



講師は「核政策を知りたい広島若者有権者の会」略して「カクワカ広島」共同代表の田中美穂さん。「核廃絶にインターセクショナルな視点を」をテーマに講演をされました。

インターセクショナルとは、交差する権力関係が、社会的関係や日常的経験にどのような影響を及ぼすかを検討する概念です。

人々の差異(人種・ジェンダー・国籍など)は、力関係を生み出し、力関係は、複数の社会的カテゴリーの「重なり合い」の中で生じる、という考えです。

田中さんは、グローバル・ヒバクシャの状況などにも触れられ、「誰かの犠牲の上に成り立つ平和なんてあってはいけません」「核兵器の問題は人権の問題」と語られました。

現在、核兵器禁止条約に日本政府は参加していません。

●核兵器の問題は人権の問題

広島自治労連連続学習会③ どなたでも参加できます！
～「住民のために良い仕事がしたい」をかなえる職場にするには～

●10/4(水)19時～20時30分 広島自治労連会議室オンライン併用
●内容「新しい平和・福祉国家構想と公務公共の役割」
●講師 関野秀明さん(下関市立大学経済学部教授)
●ミーティングID:833 1521 4811 パスコード:637764

広島自治労連第34回定期大会・オンライン併用開催

■ 10月15日(日)13時～17時
■ アステールプラザ7階・国際会議室
■ 内容:経過報告、予算・決算、運動方針案、秋闘方針案
■ 各単組、補助組織から積極的な発言をお願いいたします



権力関係が、「核廃絶」を脅かしてはいけない

秋の賃金交渉がスタートします。
広島市会計年度任用職員の「賃金・労働条件改善を求める」団結署名、広島市外郭団体で働く正規・非正規職員の「賃金底上げと雇用の安定を求める」団結署名をお届けいたしますので、広島自治労連へ返送願います。
1筆でも多くの署名が秋闘勝利につながります！

秋闘勝利！
「団結署名」に取組もう

秋闘勝利！
「団結署名」に取組もう